



■谷村みねさん／恵み野東在住

白樺の家に憧れて

恵庭は、すっかりガーデニングのまちとして知られるようになってきました。昨年もいろんなテレビや雑誌に紹介されました。その中でも特に多く紹介されているのが、恵み野の谷村みねさんのお宅です。谷村さんは、平成元年に家を建てたときから本格的にガーデニングをされており、地元の皆さんからは白樺の家として親しまれています。今回は、谷村さんからガーデニングについての思いを伺いました。

花にはいつごろから興味をお持ちになったのですか？

父親も庭いじりの好きな人だったということもあったと思いますが、小さな時から、花は好きでしたね。当時、茨城県土浦市の霞ヶ浦の近くに住んでいたのですが、環境がとても良くて、周りにはいろいろな花がたくさんあって、そんな中で育ったと言うのも良かったのかもしれませんね。よくタンポポや夕顔草を摘んできては花瓶に入れて机の上で飾っていたのを今でも覚えています。以来、ずっと花と付き合っています。

お庭の白樺は印象的ですね。

学生時代は東京でしたが、同級生に北海道から来た子がいて、北海道の素晴らしさをいろいろ話してくれました。その中で、白樺の話がとても印象に残っていて、自分が将来家を建てるときは、絶対に白樺を植えようと心に決めたのです。ですから、ここに家を建てたとき、真っ先に白樺を庭に植えたのです。

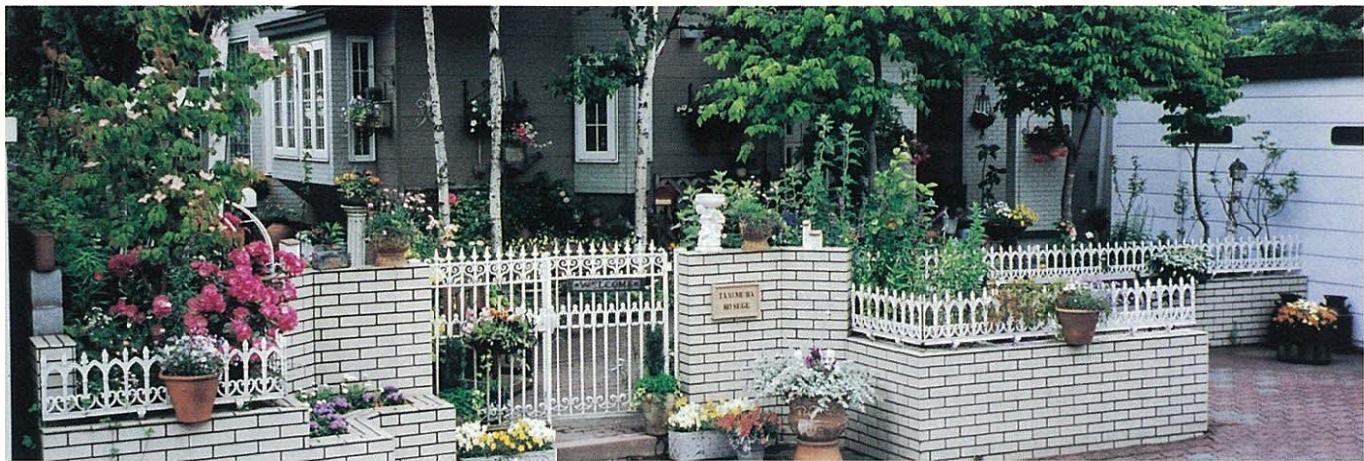
お庭にはいろいろ工夫が有るようですが。

家を建てるとき、建物の事はもちろんですが、庭のことにも随分

気を配りました。例えば、玄関へのアプローチは真っ直ぐにしないで斜めにしようとか、家の裏にも道路があるので裏側から庭を見ても感じ良く見えるようにしようとかですね。とにかく、私は、自分で考えて自分なりにやってみることが好きで、どこかの雑誌に出ているような庭の真似はしたくありませんでした。

ガーデニングをやってこられてどうですか？

私は、この恵み野に来てガーデニングをしながら暮らすようになって、本当に良かったと思いますし、大きさかもしれません、生き方が変わったと思います。自分で言うのもおかしいのですが、それまで私はどちらかと言うと少し引込思案だったのです。それがお花を通して若い方ともお友達になれましたし、いろいろな分野の方とも交流が持てました。また、お花のお陰で健康状態も良いものですから、あそこはこうしたいとか、ここはこういうふうに直そうという積極的な気持ちになって、そして実際に自分でできることはどんどんやっちゃうんです。このへんは恵み野に来る前とは大きく変わったと思ってます。



谷村さんの自宅

本当に住みやすそうなまちティマル

恵庭商工会議所のティマル地方産業交流調査団(団長:古川恵庭商工会議所専務理事、一行11名)の一員として、平成14年11月16日から23日までの8日間、ニュージーランドのティマル市を中心にクライストチャーチ市やオークランド市などで調査を行ってこられた(株)サンガーデンの土谷美紀さんに今回の感想などについて伺いました。

—ティマル市の印象は—

行った時期が向こうでは春の終わりの時期で、まだ花はあまり咲いていなかったのですが、落ち着いた感じの本当に住みやすそうなまちでした。ホテル近くの住宅街を散策したのですが、ゴミひとつ落ちていないのです。これには本当に驚きました。また、ゴミについてもう一つ、恵庭では、ゴミ収集日にゴミ袋が自宅前の歩道に並びますが、ティマルでは、景観にマッチしたゴミ箱が収集日に歩道に出されていました。これを見てもわかるように、ティマル市民は、自分たちの景観を本当に大事にしていると思いました。

—視察はどうでしたか。—

今回は、いろいろな所を視察させていただきましたが、私は花



ティマル市のレイモンド市長私邸



調査団一行(左から3番目が土谷さん)

関係の仕事をしておりますので、ピオニー(シャクヤク)やサンダーソニアリリー(ユリ)のナーセリー、植物園、ローズガーデン、ガーデンセンターなどは、当然とても参考になって良かったのですが、普段あまり見る機会の無いビール工場や大規模なミルク加工工場なども大変興味深く見せていただきました。また、今回同行させていただいた皆さんは、私とは違う分野の方たちだったので、同じものを見ても、それぞれ見方が全く違うのです。それがまた、私にはとても勉強になりました。

—これから交流については—

今回の調査では、すぐにでも交流可能な産業があるように思えましたが、恵庭とティマルとの交流は、産業交流に留まらず、一般市民がお互いのまちを理解し合えるような交流も必要だと思います。例えば、一般市民が、ティマルの植物園に技術を学びに行ったりとか、恵庭市民が誰でもニュージーランドの植物を見られるように、恵庭のどこかにニュージーランド植物園を作ったりとか、交流の仕方は様々あると思いますが、このような事を積み重ねていく事が真の交流だと思いますし、花のまち恵庭の新たな顔づくりにつながるのではないかでしょうか。

第14回恵庭・花とくらし展

メインテーマ 花もよし、風もよし、人もよし、ここが恵庭。

とき 平成15年6月28日(土)、29日(日)

ところ 恵庭リサーチ・ビジネスパークセンタービル
(恵み野北3丁目1-1)

今年も花好きのあなたには堪らないイベントが盛だくさん。
大好評ガーデンツアーは今年もやりますよ。



昨年の花とくらし展



「花の牧場」を訪ねて



■久保博子さん

一昨年の6月、恵庭インターチェンジ近くにガーデンセンター「花の牧場」がオープンしました。もう既に訪れた方も多いと思いますが、珍しいものが結構売られているなと感じたのではないかでしょうか。経営は、株式会社アレフさんです。アレフさんと言えばハンバーグの「びっくりドンキー」や小樽初の地ビール「小樽ビール」などで有名であり、レストラン系というイメージだと思っていましたが、どうしてガーデンセンターを始めたのだろうかという素朴な疑問から、アレフさんを尋ねることになりました。対応していただいたのは、エコフレンドリーチームリーダーの久保博子さんです。

どうしてガーデンセンターを？

私どもの会社の方針として、自然を大切にし、自然と共に存した永続性のある企業活動の在り方を追求するということもあって、「食」のみにとどまらず、「農業」や「環境」といった問題にもかかわるようになっております。そんな背景があつて「びっくりドンキー」の各店舗の外回りに花や緑によるガーデニングを取り入れています。ですから、ガーデニングに関しては、以前から大変興味を持っておりました。それで、世界中を見て回った事があつたのですが、ヨーロッパで売られているガーデニング用具やグッズの種類はとてもたくさんあるのに、それらが北海道では殆ど売られていないことがわかつたのです。それで、ぜひ紹介したいと思ったのです。



ガーデンセンター「花の牧場」

どうして恵庭に？

いろいろなことを総合して今のところに決めたのですが、大きな要因としてはまず、ガーデンセンターなので市街地と言うよりは、ちょっと郊外で緑の多いところが良いと思っておりました。今のお店の周辺には牧場や自然があり、のどかで開放的な環境に魅せられました。さらに、恵庭というネーミングですね、「恵まれた庭」は、ガーデン(庭)センターに相応しいし、恵庭はガーデニングが盛んなまちというのも大きな要素でしたね。

お店の特徴は？

先ほども言ったとおり世界各地から取り寄せた珍しいガーデン用品を取り揃えている事をはじめ、昨年から始めたのですが、家族でゆっくり楽しんでもらおうということで、飲食コーナーやお子さんのために小動物のふれあいコーナーもはじめました。また、昨年の10月から12月にかけてはクリスマス用品の販売を集中して行い、大変好評でした。

今年の抱負は？

今年も4月3日に元気にオープンする予定です。今年は新たなオリジナル商品も加わります。例えば、びっくりドンキーの竹割り箸のリサイクルから生まれた「竹酢液」。野菜の活力剤として、また生ゴミの消臭や害虫予防にもお薦めです。また植物では特に、宿根草とツルバラの品揃えを充実させていきます。

第3回園芸福祉全国大会

「花や野菜を育てて、皆で幸せになろう。」を合言葉に、大会が開催されます。



とき 平成15年8月29日(金)～31日(日)

ところ 北広島市・芸術文化ホール、恵庭市・恵庭リサーチビジネスパーク

内容 基調講演、シンポジウム、視察会、分科会、特別研修会ほか

素敵なお付き合いを大切に…



池永允子さん

昨年8月、2回目となる恵庭フラワーガーデニング・コンテスト「花風人」(個人部門9件、ストリート部門2件のエントリーがあった。)の審査が行われました。今回は、個人部門で「花風人グランプリ」を受賞されました

池永允子さん(恵み野南在住)

にガーデニングについてあれこれお話を伺いました。

いつごろからガーデニングをはじめたのですか。

昭和56年に今の住宅を購入したのですが、しばらくの間、庭は、全部芝生にし、子供たちがまだ小さかったものですから、そこで夏はテントを張ってキャンプなどをやっていました。ガーデニングを本格的に始めたのは、平成5年からだったと思いますが、恵み野フラワーガーデンコンテストの審査員を行う機会があり、恵み野町内の素敵なガーデニングをたくさん拝見して、私もやってみようと思ったからです。ハンギングバスケットから始め、次の年はトレリス

(ご主人の手製)を家の壁に取り付け、花を飾りました。その次の年には、今もありますが機関車型の木製プランター(こちらもご主人の手製)を取り付けました。

何か特徴のようなものがありますか。

道路側はクリサンセマムやロベリアなどの「揺れる花」を多く使い、道ゆく人に楽しんでもらい、中庭の方は、宿根草を多くし自然の中を散策し、ここにいると「ほお~っとするなあ」という感じになるようにしています。機関車のプランターには、その年出た新種のものを植え込むように心がけています。何年かかるかわかりませんが、もっと季節感のある庭にしたいと思っています。

ふだん感じているようなことがあればお願いします。

まわりの人が本当にいろいろ気を使ってくれるのです。例えば、「この花を使ってみてください。」と今まで庭に無かった花を持ってきてくれる人がいたり、シーズンになると、朝からガーデニングの見学者が結構来られます。私は仕事(イトヨーカ堂の花屋さん)で不在のときが多いので、近所のおじさんが私の代わりに庭を案内してくれています。まわりの人達とのこんな素敵なお付き合いを大切にしながらこれからもガーデニングを続けていきたいと思っています。

第2回恵庭フラワーガーデニングコンテスト「花風人」入賞者

【個人部門】

賞	氏名	住所
花風人グランプリ	池永允子様	恵み野南
花風人賞	工藤美喜江様	島松寿町
花風人賞	田端敏幸様	恵み野南
花風人賞	西村えり子様	白樺町

審査日:8月8日

*花風人賞は50音順です。

【ストリート部門】

賞	名称	所在
花風人グランプリ	恵み野やすらぎストリート様	恵み野駅前通
花風人賞	恵み野中央公園通様	恵み野南



池永さんの自宅

とじて保管します。

開催について 花のまちづくり講演会の

■発行 恵庭・花のまちづくり推進会議
北海道恵庭市京町1番地
TEL(0123)333-3131 FAX(0123)333-3175
発行日:平成15年3月15日



- 6、その他
恵庭花のまちづくり推進会議
入場無料、申込み不要
先着100名様に花の種プレゼント

5、主催

恵庭花のまちづくり推進会議

4、演題

「ガーデンシティを目指して」

*藤岡先生は、花のまちづくりの研究に関しては日本的第一人者です。先生からガーデンシティになるための具体的なアドバイスがあります。

3、講師

(社)兵庫県森と緑の公社花と緑のまちづくり研究所

所長 藤岡作太郎氏

1、とき
平成15年3月21日(春分の日)
開場13時00分 開演13時30分
2、ところ
恵庭リサーチビジネスパークセンタービル
3階視聴覚室(恵み野北3・1・1)